

北相地区事務所でアスパラガス栽培試験スタート

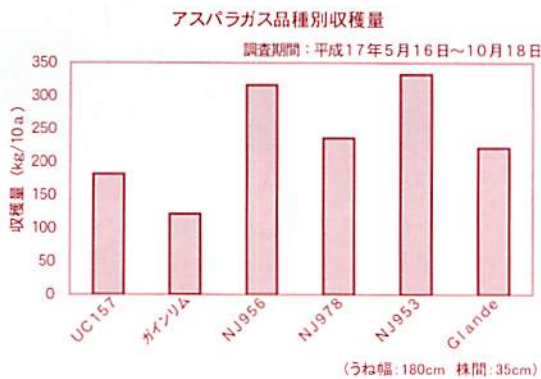
北相地区事務所

当センター北相地区事務所（相模原市相模湖町）では津久井、相模原地域に最も適した品種の選定や栽培管理の方法を確立することを目的に平成17年4月27日に当センター本所（平塚市）で試験のために4年間栽培された6品種のアスパラガスの株を移植し栽培試験をスタートしました。

生育については立茎させるのに十分な太さの若茎の発生が遅れ6月上旬に立茎を始めました。また、夏季の高温乾燥が心配されましたが順調に生育しました。



北相地区事務所でアスパラガス栽培の様子



収穫量調査の結果は「NJ953」、「NJ956」が好成績でしたが移植による影響が考えられることから地域の栽培条件に対する品種の適応性などは平成18年度からの試験成績による判断になります。

病害虫については本所での栽培期間には発生がみられなかった「ジュウシホシクビナガハムシ」の発生が確認されました。この害虫は擬葉（見た目の葉の部分）や若茎を食害しますが中山間地での被害が多いようです。（病害虫発生予察特殊報第6号参照）

今後病害虫の発生にも注目しながら栽培試験をつづけ特産品づくりにむずびつけたいと考えています。

ダイコン、キャベツのナモグリバエ被害と防除対策

三浦半島地区事務所

三浦半島地域の秋冬作ダイコンでは5年ほど前からナモグリバエが多発し問題となっています。ナモグリバエは通称「絵描きムシ」と呼ばれ、幼虫が葉肉の間に潜って食害することにより、いたずら書きのような痕が付き、葉付きでの出荷が難しくなります。また、キャベツでも結球部に吸汁痕ができ、問題となっています。



ナモグリバエによる被害を受けたダイコンの葉

今年度は革新的農業技術習得研修（プロジェクト研修）により、（独）野菜茶業研究所に協力を依頼し調査、研究を進めています。三浦半島内現地圃場約10カ所で発生状況等の調査を行っており天敵の寄生も確認し、同定を行っています。また、この地域独特のダイコン防風対策である、生育初期の寒冷紗べたがけを行うと、初期の被害が少なくなることもしかりました。今後はダイコンのナモグリバエに対する農薬の登録拡大や、在来天敵の有効利用を図るための農薬使用方法の検討が重要と思われます。